

待ちに待った給食
むぎごはん
ポークカレー
おひたし みそ大豆

ほぼ日刊 夢の華 Cカ a r a ト

第787号

神町中学校 夢色通信社
令和3年1月6日

うし年は、先を急がず目の前のことを着実に進めることが、将来の成功につながるといわれています。



謹賀新年

1月4日、東根市新春を祝う会のオープニングで披露された「若木焰（ほのお）太鼓」。後藤健太くん、設楽旦陽くん、佐々木颯太くん、佐藤奏芽さんもメンバーの一員として参加。真っ青な空に白い雪が舞う風景を、勇壮な太鼓で表現してくれました。（イオンの初売りでは、阿部真夕さんも加わり太鼓を披露しました）

“自ら学ぶ”プロジェクトが始まり、2年となります。自ら学ぼうとする姿勢は身につきましたか？

「マインドセット」という言葉があります。日本語で表現すれば、「心の持ち方」です。小学校低学年の子は、がんばる子はできることがどんどん増えていくから賢い子になると考えます。努力によって能力はどこまでも成長し続けられるという考え方です。これを、「成長的マインドセット」といいます。一方、高学年くらいになると、同じ成績をとったとすれば、よりがんばらなかった子が賢いと考えようになります。だから、努力しなくてもできる奴をカッコイイと思うわけです。これを、「固定的マインドセット」といいます。能力は生まれながらにして決まっていて、一生変わらないという考え方です。この2つの考え方のどちらが優勢になるかで、「学びに向かう力（意欲）」は大きく変わってきます。

成長的マインドセットが優勢な人は、努力こそが人を賢くすると考えますから、努力を隠したり控えたりせず、他人の努力や成功をも素直に認め喜ぶことができます。また、新しいことを理解したり上達させるためにいろいろなことに挑戦し、本気になって取り組みます。失敗は成功のもとであり、決定的なダメージとは考えません。固定的マインドセットが優勢な人は、テストで悪い点を取る、試合に負ける、友達とのトラブルなどは能力が低い証拠であり、決定的なダメージと考えます。だから、失敗しそうになるとごまかしたり逃げたりします。がんばりによって結果が得られたという経験を積み重ね、他人との比較ではなく、自分自身の努力に焦点を当てていくことで、成長的マインドセットが優勢になります。

3学期は、成長的マインドセットの力を高めていきましょう。

